

## 平成 30 年度玉川大学総合人間科学ワークショップ 私立大学研究ブランディング事業準備会

- 連携会議・意見交換会
- 人間の作動原理研究グループ分科会

2019 年 2 月 13 日～15 日ホテルラヴィエ川良



申請中の私立大学研究ブランディング事業「人間の本質の理解を目指す総合人間科学研究拠点の形成」（以下「私学ブランディング〈総合人間科学研究拠点〉」と略す）の準備のために、人間の本質について、神経科学的アプローチを中心とする「人間の作動原理研究グループ」、哲学的アプローチを中心とする「人間の本質に関する理論研究グループ」、そしてこれらの教育実践との接続を図る「縦断的学びの接続研究グループ」（以下、まとめて「3グループ」と呼ぶ）の連携を飛躍的に強化することを目的として、グループ間の連携会議と意見交換会および「人間の作動原理研究グループ」分科会を、関連する教員、研究員、そして大学院生が原則全員参加するワークショップ形式で開催した。プロジェクト推進担当者 14 名と共同で研究をおこなっている大学院生、研究員等と、招聘講師 3 名を合わせて、総勢 53 名が一同に会し、これからの玉川ブランドの確立に向けた濃密な議論および研究討論を行った。



図 1

まず、初日の連携会議では、申請中の私学ブランディング〈総合人間科学研究拠点〉の概要説明、続いて 3 グループそれぞれの代表から各グループが目指すことの提

示、そして本学の理念である「全人教育」についての主体的に捉え返した講演（図 1）を実施し、それぞれに対して率直な討論が行われた。そのうえで、各々の推進担当者のプロジェクト内容について概説した。

2 日目以降の「人間の作動原理研究グループ」分科会では、実際に研究を推進している大学院生全員（図 2）、および動物研究、理論研究、ヒト研究のそれぞれの分野から選出した研究員から詳細な研究成果に関する口頭発表を実施し、十分な討論を行った。さらに詳細については、参加した大学院生・研究員全員の研究内容を、二晩に渡るポスターセッションで十分に議論した。



図 2

また、人間の脳の作動原理の理解に向けた挑戦的な研究で世界をリードする外部講師 3 名を招聘し、ご講演をおこなって頂いた。株式会社アラヤの大泉匡史先生には、「意識」という科学の最難問に挑む理論をどのように創ることができるのかについて（図 3）、京都大学の井上謙一先生には、ヒトに近縁のサル脳の神経ネットワーク機能にアプローチするためのウィルスペクターの利用の仕方について（図 4）、そして北京大学の納家勇治先生には、ヒトの心の要となる記憶の神経メカニズム研究

の到達点と地平について（図5）、本質を突いた超一流のご講演を頂いた。



図3



図4



図5

最後に、小松英彦脳研所長からの、科学研究の人間にとっての意味をメタな視点から示唆する総括と、優れた発表をした大学院生・研究員を称える表彰式により、各自が大きな希望を胸に刻み、本ワークショップを終了した。私学ブランディング〈総合人間科学研究拠点〉の立ち上げに向けた準備態勢が多角的に整えられていることを確認し、大いに士気を高めることができたワークショップであった。

（補遺：しかしながら、私学ブランディング事業に既に採択されていた他大学の不祥事により、当事業は大幅に縮小され、本学の申請も採択に至ることはなかったことは残念至極である。）

（脳科学研究所 高岸治人）

最優秀研究賞	リオス ダビラ アライン
ユニーク研究賞	神代真里
特別賞	山田徹志
奨励賞	坂入朋美、杉本翔哉、寿秋露

2月13日(水)

開会宣言 小松英彦(脳科学研究科 所長)  
 私立大学研究ブランディング事業「総合人間科学研究拠点」について 松田哲也(脳科学研究科)  
 人間の作動原理研究グループより 坂上雅道(脳科学研究科応用脳科学研究センター)  
 人間の本質に関する理論研究グループより 山口修二(学術研究所人文科学研究センター)  
 縦断的学びの接続研究グループより 大森隆司(学術研究所 所長)  
 玉川学園と全人教育 小原一仁(学術研究所高等教育開発センター)  
 〈Flash Talk for Laboratory Introduction〉  
 磯村宜和 岩田恵子 大森隆司 小松英彦 酒井裕 佐治量哉 鮫島和行 坂上雅道 佐々木哲彦 高岸治人 松田哲也 松元健二

2月14日(木)

〈Oral Session I〉  
 仁科国之(脳科学研究科 D3 坂上研究室)  
 Oxytocin receptor gene methylation and trust  
 Alain Rios Davila(脳科学研究科 D3 磯村研究室)  
 Modification of the lateralized activity of the motor cortex after dopamine depletion Cortical processing of sensory and motor information in rodents  
 川端政則(脳科学研究科 D2 磯村研究室)  
 Cortical processing of sensory and motor information in rodents  
 正岡明浩(脳科学研究科 D1 小松研究室)  
 Neural mechanism of conscious color perception in macaque monkey  
 吉村麻美(脳科学研究科 D1 梶川研究室)  
 The effects of interpersonal synchrony on infant behavioral and physiological states  
 田坂源之助(脳科学研究科 D1 相原研究室)  
 〈Special Lecture I〉  
 大泉匡史(株式会社アラヤ・マネージャー)  
 意識の理論の創り方 ~統合情報理論の視点から  
 〈Oral Session II〉  
 中島直樹(脳科学研究科 D1 相原研究室)  
 The modulation of responses characteristics depending on the input frequency in hippocampal granule cells  
 杉本翔哉(脳科学研究科 M1 相原研究室)  
 The modulation of back-propagated action potential by LTP induction on dendrite in rat hippocampal dentate-granule cells  
 禹明香(脳科学研究科 M2 佐治研究室)  
 Mora perception of 5 to 6 month old infants with Japanese: Consideration of geminate consonants using Korean language  
 杉本裕樹(脳科学研究科 M2 酒井研究室)  
 Development of behavioral tasks to distinguish model-based and model-free reinforcement learning  
 蔣嘉森(脳科学研究科 M2 坂上研究室)  
 The Application of Calcium Imaging Technology to The Deep Prefrontal Area of Awake Macaque  
 小林大志(脳科学研究科 M1 鮫島研究室)  
 A behavioral analysis of eye contact with humans in a Japanese monkey

坂入朋美(脳科学研究科 M1 磯村研究室)  
 Behavioral and neural correlates with reward expectation  
 寿秋露(脳科学研究科 M1 松田研究室)  
 Measuring of implicit social value orientation  
 田村典子(脳科学研究科 M1 佐治研究室)  
 Relationship between environment of putting infants to sleep and sleeping  
 藤澤和(脳科学研究科 M1 松元研究室)  
 A behavioral task design to extract human utility function  
 〈Sepecial Lecture II〉  
 井上謙一(京都大学・霊長類研究所・助教)  
 ウイルスペクターを利用した霊長類における神経ネットワーク操作

2月15日(金)

〈Oral Session III〉  
 神代真里(脳科学研究科 鮫島研究室)  
 Social communication between monkeys and humans through touch  
 宮田真宏(脳科学研究科 大森研究室)  
 Emergence of symbolic inference based on value-driven intuitive inference via associative memory  
 梶村昇吾(脳科学研究科 松元研究室)  
 Frequency-dependent brain network and its integration  
 〈Special Lecture III〉  
 納家勇治(北京大学・心理認知科学学院・教授)  
 宣言的記憶システムが表現する物体と空間 松元  
 小松英彦(脳科学研究科 所長)  
 ワークショップの総括とブランディング事業の今後のプラン